

会議議事摘録

会議名	2023年度第2回学校関係者評価委員会
開催日時	2023年10月28日(土曜日)14:00~16:00
場 所	本校7階研修室
出席者 (敬称略)	<p>①委員：赤塚敦子(看護関連業界関係者)、石川幹夫(卒業生)、黒田江里(保護者)、森川雅彦(高等学校関係者) (計4名)</p> <p>②学校：川口拓也(校長)、前田律子(副校長)、榊原幸之(事務局長)、村山由美(医療秘書科学科長・医療事務科学科長)、石澤雅子(医療秘書科副学科長・医療事務科副学科長)、川畑亮子(医療事務IT科学科長・診療情報管理科学科長)、結城久美子(くすり・調剤事務科学科長)、渋谷大樹(くすり・調剤事務科教員・教務委員長)、松田朗(介護福祉科学科長)、伊東由美(看護科学科長)、光本文仁(キャリアサポートセンター長) (計11名)</p> <p>③委員会事務局：土屋瑠美子、菅谷久美子、土方雄太(計3名)</p> <p>④オブザーバー：宗像秀樹(広報室長)</p> <p style="text-align: right;">(参加者合計19名)</p>
欠席者	篠塚 功(医療事務関連業界関係者)、藤井寿和(福祉関連業界関係者)、村上優海(くすり関連業界関係者)
配付資料	<p>事前送付資料：</p> <p>□資料1：2023年度第1回学校関係者評価委員会議事録、□資料2：2023年度学校関係者評価委員会名簿、資料3：2023年度第1回委員会以降の主な経過報告 別添A：2023年度進路決定状況、別添B：2024年度生募集状況、別添C：2023年度教員研修計画・実績、別添D：2024年度生入学前指導プログラム、別添E：2023年度前期授業アンケート集計結果、資料4：2023年度学校関係者評価報告書案、資料5：2022年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み状況報告(中間点検)、資料6：2023年度重点目標の取り組み状況報告(中間点検)</p>
議題等	<p>1. 校長挨拶</p> <p>今年度も半分が経過し、ようやくコロナ前に戻ってきた。外部環境の一つに人手不足があり、企業の採用熱が高くなっている。</p> <p>昨日、全専各連の会議に参加したが、専修学校に対する行政の応援は以前と全く違う印象を受けた。高度人材育成のための産学連携による教育、生活基盤を支えるエッセンシャルワーカーを社会に送り出してほしいとの話があった。リスキリング、留学生教育が専門学校に求められている大きな役割かと思う。</p> <p>専門学校の質保証に期待する話題も多く、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会で議論された情報を公開し、PDCAを回していくことが求められている。今日は中間点検となるが、忌憚ない意見をいただき、教育改善、学校運営改善につなげていきたい、との挨拶が行われた。</p>

2. 前回委員会議事録の確認（資料1参照）

事務局より前回議事録案について諮ったところ、委員から特段の意見はなく、個人情報に配慮して公開することが承認された。

3. 事務局より今年度委員の交代について（資料2参照）

事務局より、くすり関連業界関係者委員が、人事異動により川井委員から村上委員に交代したことが報告された。

4. 経過報告（資料3参照）

・2023年度第1回委員会以降の主な経過について

事務局長、キャリアサポートセンター長、教務委員長、委員会事務局より、資料2（別添A～Eを含む）に基づき報告し、確認、了承された。委員からの質問・意見及びその回答は別紙のとおり。

5. 2023年度学校関係者評価報告書案について（資料4参照）

委員長より、評価の基準ごとに質問・意見を求める形で進められた。報告書案に対する質問・意見及びその回答は別紙のとおり。

6. 2022年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み状況報告（中間点検）（資料5参照）

資料5に基づき質問・意見を徴し、確認、了承された。委員からの質問・意見及びその回答は別紙のとおり。

7. 2023年度重点目標の取り組み状況報告（中間点検）（資料6参照）

川口校長より資料6に基づき別紙のとおり中間点検報告が行われ、確認、了承された。

8. 委員総評

出席委員より、別紙のとおり総評をいただいた。

9. 意見交換など

特段の意見はなかった。

次回日程、その他

事務局より、改めて日程調整をさせていただきたいとの報告があり、了承された。

以上

2023 年度第 2 回学校関係者評価委員会の主な討議内容

次第 4. 2023 年度第 1 回委員会以降の主な経過について（資料 3 参照）

- 榊原事務局長、光本キャリアサポートセンター長、渋谷教務委員長、事務局より、資料 3（別添 A～E を含む）に基づき報告が行われた。（報告の詳細は省略）
- 委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p>退学者の傾向や事情を分析しているか。</p>	<p>退学理由は幾つか重なっている者が多い。健康面、進路変更、進路不適合、学業不振、経済的理由などが主な理由となる。</p> <p>医療秘書科の傾向としては、だんだん欠席が増えていき、担任の声掛けにも反応がなくなり、ついには学校に来なくなった学生がいた。この時点で保護者に連絡を取り、状況を説明したが、結局、進路変更で前期終了後に退学した。</p> <p>他には、メンタルに問題があって休学している者、授業についていけずに退学した者、進路変更、人間関係などがある。</p> <p>いずれも、まずは本人に連絡し、保護者や学校カウンセラーと相談し、学科内で情報交換、意見交換をしながら対応している。</p> <p>介護福祉科では、休学者がいる。</p> <p>くすり・調剤事務科では、前期終了時点で 1 年生の退学者がいる。いずれも精神的不調で、出席できない状況が続いた。</p> <p>欠席が 3 回を超えた時点で本人や家庭と連絡を取っているが、反応がなく、欠席が 5 回を超えてそのまま退学になる学生が毎年一定数いる。</p>
<p>入試方法との関連はあるか。</p>	<p>以前は AO 入試で入ってくる学生が多いという話があったが、今は関係ない。</p>
<p>学生相談コーナーで対応されているのは専門のカウンセラーか。</p> <p>学生相談コーナーに行くまでの一歩が踏み出せないのかと思う。メールなど、匿名で相談できるものがあるとよいのではないか。</p>	<p>3 人の先生で回している。</p> <p>最初の予約はメールで取れる。学校に来られない学生に対してはオンラインでも面談ができるようにしている。</p>

<p>3名のカウンセラーは、常駐しているのか。</p> <p>3名で対応するのであれば、いつもどなたかがある体制にできないか。</p> <p>保健室の看護師さんに相談する学生はいるか。</p> <p>今の学生は、保健室の先生を身近な存在に感じて育っている年代だと思うので、看護師さんに聞いてもらえるのはよいことだと思う。</p> <p>①入学前指導プログラムは実施されているが、A O入試や推薦で入った学生の学力を担保するために課題を出すことは考えているか。</p> <p>②アンケートは記述部分もあるのか。</p> <p>外国人の出願について、アプローチの仕方工夫し、力を入れた部分はあったか。</p>	<p>週1回、1時間ずつ予約が取れるようにしている。</p> <p>規模感の問題もあると思うが、他でも仕事を持っている方々なので難しい。</p> <p>看護師は週3回来ており、授業の合間に話をしに来る学生もいる。今後は、保健室の看護師とカウンセラーの先生が連携しながら学生のフォローをする体制も考えたい。</p> <p>学生には、保健室の看護師、担任、カウンセラーの3つの選択肢があって、それぞれ自分に合う人を見つけているようだ。</p> <p>①入学前指導プログラムでは、各学科で課題を用意して、レポートを提出させている。</p> <p>①看護科では、入学前指導プログラムとは別に、外部に委託して学習課題への取組、提出をさせている。細かなデータも見られるので助かっている。</p> <p>②アンケートは、設問14で自由記述欄を設けており、先生方はその内容を確認し、次回以降の授業に反映させている。</p> <p>コロナ禍で来日する外国人が減り、一旦日本語学校との縁が切れてしまった。今は実績のある日本語学校への訪問や、留学生対象の会場ガイダンスに参加して来校を促している。</p>
--	---

次第5. 2023年度学校関係者評価報告書案について（資料4参照）

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p>基準2 □学校運営</p> <p>前回お願いした中期計画の内容はどこを見ればよいのか。</p>	<p>□今年度は中期計画の見直しに入っているため、年度末の委員会のおきにお見せしたいと思う。</p>
<p>基準3 教育活動</p> <p>オンライン授業は、まだ幾つかの科で継続しているのか。</p>	<p>診療情報管理科では、2年生と3年生がある。繰り返し見て覚えてほしいときと、たくさんの資料を見せ</p>

<p>基準6 教育環境</p> <p>タブレットは個人で購入するのか。</p> <p>レポート等の作成で学校のパソコン室を常時使えるようになっているか。</p> <p>学生が作ったものはサーバーか何かに保存できるようになっているか。</p> <p>端末機器の入れ替えは何年ごとに行うか。</p>	<p>ながら授業をするときはやりやすい。</p> <p>くすり・調剤事務科は、基本的には対面を予定しているが、次年度から、配付資料のペーパーレス化や小テストの実施を目的に1人1台のタブレットを利用した授業を導入する。</p> <p>医療秘書科は、基本的にはグループワークも含めて対面で行っているが、自分のペースで何度でも繰り返し見てほしい科目はオンデマンド教材にして、その後、Google フォームで回答や感想を送ることは今も行っている。</p> <p>既に所有しているものが求めるスペックを満たしていればそれを使ってもよいが、そうでない場合は購入してもらう。</p> <p>パソコン教室が空いていれば使うことができる。</p> <p>ファイルサーバーで管理し、端末自体にはデータが残らないように設定している。</p> <p>昨今のリース期間は4年が多いので、少し延長して5年以内には大体替えるようになっている。今後、GIGAスクール構想が実現するまでの移行期かと思っている。</p>
<p>基準7 学生の募集と受入れ</p> <p>①パンフレットの内容を少し格調高いものにする ことについて、何か検討されているか。</p> <p>②科別の薄いリーフレットは便利かもしれない が、高校等では一冊にまとまっていたほうが指導 しやすいし、生徒も見やすいと思う。</p> <p>③コロナ禍で大会場での説明会がなくなってきて いるが、学校独自の説明会や保護者向けの説明会 についての考え方を伺いたい。</p>	<p>①入学案内書は、大手の競合校とは違い、大人の学生 をターゲットにしたテイストにしている。次年度もバ ランスを見ながら制作していきたい。</p> <p>②分冊のパンフレットに関しては、次年度は1冊にま とめるように制作を進めている。</p> <p>③本校は、従来から会場ガイダンスにはあまり参加し ていない。高校から呼ばれて行く機会が多いので、そ ちらに予算と人手を割いて募集活動を行っている。高 校教員向けの説明会は、来年実施することを検討して いる。</p>

<p>基準9 法令等の遵守</p> <p>SNSでうっかり上げてしまって問題になるようなことは起きていないか。</p>	<p>病院の事務はA Iの発達によってなくなるとして高校の先生が反対されるケースがあると聞くが、病院経営に近い方に今後の人材動向について聞いたところ、ますます多様なスキルが必要になると言われた。その方の話を啓蒙ツールとして高校の先生と保護者に配る活動を進めている。</p> <p>医療系は実習があるので指導を強めに行っている。ふだんから意識するようにはなっていると思う。</p> <p>別の学校だが、病院に芸能関係の方が来た話をSNSに上げたことが新聞沙汰になったことがあった。そういう危機感を持って、学生に指導している。</p>
---	---

次第6. 2022年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み状況報告（中間点検）（資料5参照）

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p>□学生サークルが新しく立ち上がったということだが、今の1年生は地震・原発の事故のときからコロナまで、学校行事の楽しみを奪われて育った学年だと思うので、もし1年生ならば大変珍しいと思う。</p> <p>本校は全学科男女共学だが、中学生、高校生の男子の場合、医療機関の事務的な仕事にはなかなか目が向かないということがあるか。</p> <p>本校の魅力が男子学生に届くような工夫をぜひしていただきたい。</p>	<p>□介護福祉科の1年生でバドミントンのサークルを立ち上げ、他学科の学生も巻き込んで積極的に活動している。</p> <p>体育会系とは反対のゆるい感じのものが立ち上がっている。学生が自分たちで何かをやって楽しんだり、授業以外の人とのつながりが戻ってくるとよいと思う。</p> <p>看護職や介護には目が向く子がいるが、医療事務のスタッフは女性の世界のような見方をしている子が多い。</p> <p>求人の方から言うと、夜勤のこともあり、男子は非常に人気がある。</p>

次第7. 2023年度重点目標の取り組み状況報告（中間点検）（資料6参照）

○川口校長より、以下のとおり報告があった。

(1) 学生確保

高校の先生方の影響は大きい。今はとにかく四年制大学へ送り込もうとされているが、進路選択の幅を広げてもらうよういろいろなツールを作り、SNSなどを通じて、高校生だけでなく、高校の先生方への情報発信を強めていきたい。

(2) 社会人・既卒者向けプログラム

本校は国家資格取得を目指せる介護福祉科や看護科などで社会人の再進学者もいるが、短期教育となる厚労省の離職者訓練プログラムにも手を挙げている。成立したものと成立していないものがあるが、来年に向け、病院の事務系のものを準備している。

(3) 日本語学校との連携

東京都の修学資金を借りる際の保証人は施設になるので、施設訪問をしながら、留学生にお金の手当について説明できるよう日本語学校とアライアンスを組んでいる。

(4) ハイブリッド型教育

先ほど話題に出たくすり・調剤事務科で来年度実施に向けて準備を進めている。

(5) 校名変更

本校にとって長く続いている問題だが、今は、理事会も含めて検討をストップしている。校名を変えるのであれば、教育領域も変えなければならないと思っている。

次第8. 委員総評

教員が学生一人一人に丁寧に関わり、様々な相談方法もあるので、私はよく対応されていると思っている。

昨年度よりも内定率が高くなっていることや、学生が早くから進路や就職先を決めて就職されることはよいと思うが、1つ気になったのは、外来のクリニックや美容外科のクリニックに就職するのであれば、病院の中でいろいろな経験を積んで看護師として育ってほしいという願いがある。本人たちの希望なので致し方ないと思うが、これは今までにない傾向かと思った。

よい教育をするには、先生方の教育力を上げていくことが大事なので、研修機会が増えているのはよいことだと思う。

ボランティアについても、ぜひ学校を挙げて進めていただければと思う。

T P Cの育成については、より一層学生の対話力が身につくような教育を望みたい。

数十年前から非常に真面目な学校という印象を持っており、それは今も変わらない。

現状は本当に切実で、仕事の魅力や就職率の高さをいかに高校教員や保護者に発信していくかが大事だと思う。そのお手伝いができたらと考えている。

今は、在籍している学生が多様化してきている。学力の幅も広く、メンタルに問題がある子もいる中で、教育にどれだけ真剣に取り組めるかが学校の存在意義として問われる。一人一人に寄り添って、全員を就職させるような教育を今後ともやっていただければと思う。

学生は、まだ社会的な経験が少ないので、とにかく明るい学生生活を送れるようにしてほしい。

技術・技能・知識を身につけて、医療関連・介護関連のスタッフとして十分力を発揮し、自立できるような学生を育ててほしい。資格取得は大事なことだが、人間としても医療人としても成長できるという姿を見せることができれば、それが就職にもつながるのではないかと。中身のある教育活動、資格取得、就職開拓を地道にやっていただくことがとても大事だと改めて感じた。

前回は今回も学生に対するフォローが本当にきめ細かいなと感じた。それは四年制大学にはない専門学校の特徴ではないかと思う。今の高校は四年制大学への進学実績づくりに向かって学校全体で邁進しているような感じがして、生徒のことを本当に大事にしてくれているのかなという疑問もあった。日本全体で大学進学率9割と声高に叫ばれ、学生数よりも定員のほうが多い逆転現象が起きている中、大学に行って当たり前という感じになっているが、そこはもう少し冷静になって、本当にやりたい仕事があれば専門学校のほうが向いている場合も多々あることを学校の先生にも理解していただけると、もっと子供たちの選択肢が広がっていくのではないかと思う。頑張してほしい。

毎年度、学校運営全体として検討を重ね、創意工夫もされ、改善・改良に努められている状況を見ることができて、評価に値するものだと感じている。やや苦戦を強いられている入りの募集状況が、教育の中身や出口の部分にも影響してくると思うので、募集委員会を中心に検討を重ねて、よい結果に結びつくことを期待している。

以上